

久留米工業高等専門学校 令和4年度数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価(1/3)

会議名称：令和5年度第1回自己評価検討委員会（メール審議：令和5年4月27日～5月8日）

開催場所：久留米工業高等専門学校

目的：数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシー）の令和4年度自己点検および自己評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の審査項目

自己点検・評価の視点	評価	評価理由
プログラムの履修・修得状況	A	全て必修科目で本プログラム構成しており、1年次入学する学生全員が履修する。修得状況は及落査定会議で確認される。全学生および全教職員が利用しているMicrosoft365を活用し、教材の共有やチャット等による個別指導などを行っており、学生の履修に対するサポート体制が整っている。履修率は100%であり、修得率は進路変更等による若干名の未履修者を除いたほぼ100%に近い状態である。
学修成果	A	本校は準学士課程における教育目標の一つに「数学、自然科学、情報処理に関する基礎能力の育成」を挙げており、全学科でリテラシーレベルを満足する教育を行っている。学修成果は、本プログラムの構成科目を含む全科目を対象とした年度末の及落査定会議を通じて確認される。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	B	本プログラムの授業科目の一部を対象に授業改善検討委員会によって学生全員を対象にアンケートを実施した。アンケート結果は授業担当教員にフィードバックされ、各教員は授業改善に向けた報告書を提出する。また、シラバスには科目の到達目標とルーブリックが掲載されており、学生自身も理解度を把握できる仕組みとなっている。授業アンケートでは、特に「この授業の内容に興味を持てましたか?」、「この授業は総合的に良い授業だったと思いますか?」の項目を理解度の把握に用いている。令和5年度はアンケートを全科目に拡大する予定である。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	A	全学生が本プログラム履修者であるため、履修を促す必要は無い。認定制度について教務主事が年度最初の始業式で全学生に説明し、認定結果を学校のウェブページで紹介した。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	A	本プログラムは必修科目で構成されており、1年次入学者は全員が履修者であるため、編入生を除いた入学者に対する履修率は100%である。平成31年度の1年次入学者から本プログラムが適用され、以降すべての入学者（定員200名）が履修している。

評価基準

A：達成している、B：ほぼ達成している、C：やや不十分、D：不十分



久留米工業高等専門学校 令和4年度数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価(2/3)

会議名称：令和5年度第1回自己評価検討委員会（メール審議：令和5年4月27日～5月8日）

開催場所：久留米工業高等専門学校

目的：数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシー）の令和4年度自己点検および自己評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の審査項目

自己点検・評価の視点	評価	評価理由
教育プログラム修了者等の進路、活躍状況、企業等の評価	A	修了者は令和5年度末に初めて卒業する予定である。進路、活躍状況、企業等の評価は、キャリア支援室運営委員会が報告する修了者の進路（就職先・進学先）によって把握する体制が整っている。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	A	産業界からの意見は外部評価委員会による提言を通じて得る体制が整っている。令和元年度の外部評価委員会における講評で「データサイエンスにAIに関する講義を入れる」といった提言があり、一部の学科が対応している。また、令和5年度より数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム九州・沖縄ブロックの会員となるため、ブロック会議への参加を通じて意見を収集する予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	B	授業アンケートの「この授業に関する内容を自主的に勉強しましたか？」、「この授業内容に興味を持てましたか？」、「この授業は総合的によい授業だったと思いますか？」の回答をもって把握する。アンケート対象がプログラム対象科目の一部に留まっているため、令和5年度は全科目に対して実施する予定である。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業にすること	B	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業にすること、授業アンケートの「この授業について先生は十分に準備していますか？」、「この授業で質問をしやすくするなど、双方向性を持たせる工夫がありましたか？」、「この授業の全体の構成は適切でしたか？」、「この授業で学習する力が身に付きましたか？」の回答をもって把握する。令和4年度の授業アンケートは一部の科目に留まったため、令和5年度は全科目に対して実施する予定である。

評価基準

A：達成している、B：ほぼ達成している、C：やや不十分、D：不十分



久留米工業高等専門学校 令和4年度数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価(3/3)

会議名称：令和5年度第1回自己評価検討委員会（メール審議：令和5年4月27日～5月8日）

開催場所：久留米工業高等専門学校

目的：数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎）の令和4年度自己点検および自己評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル）」の審査項目

自己点検・評価の視点	評価	評価理由
プログラムの履修・修得状況	A	全て制御情報工学科の必修科目で本プログラム構成しており、同学科に1年次入学する学生全員が履修する。修得状況はリテラシーレベルと同様である。
学修成果	A	制御情報工学科は「メカトロニクスや情報の分野で活躍できる技術者になるために必要な基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する」を目標としており、応用基礎レベルを満足する教育を行っている。学修成果は、本プログラムの構成科目を含む全科目を対象とした年度末の及落査定会議を通じて確認される。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	B	リテラシーレベルと同様である。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	A	制御情報工学科に入学する全学生が本プログラム履修者であるため、履修を促す必要は無い。認定制度について教務主事が年度最初の始業式で全学生に説明した。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	A	本プログラムは必修科目で構成されており、1年次入学者はすべて履修者であるため、編入生を除いた入学者に対する履修率は100%である。平成30年度の1年次入学者から本プログラムが適用され、以降すべての入学者（定員40名）が履修している。
教育プログラム修了者等の進路、活躍状況、企業等の評価	A	修了者は令和4年度末に初めて卒業した。進路、活躍状況、企業等の評価は、キャリア支援室運営委員会が報告する修了者の進路（就職先・進学先）によって把握する体制が整っている。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	A	リテラシーレベルと同様である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	B	リテラシーレベルと同様である。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業にすること	B	リテラシーレベルと同様である。

評価基準

A：達成している、B：ほぼ達成している、C：やや不十分、D：不十分

